

# 大阪駅周辺・中之島・御堂筋周辺地域都市再生緊急整備協議会会議

## 第4回 大阪駅周辺地域部会 議事録

開催日時：平成 25 年 10 月 11 日（金） 10:30～12:00

場 所：ホテルプリムローズ大阪 2階鳳凰

### 1. 開会

#### 佐藤都市計画局長（大阪市）

それでは、定刻になりましたので、会議のほうを始めさせていただきます。

本日の司会の進行役を務めさせていただきます、大阪市都市計画局長をしております佐藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は第4回目の部会ということで、これまでのご議論を踏まえまして、府・市・経済団体で実行委員会を立ち上げまして検討をしましてまいりました民間提案募集の募集要項を報告させていただきますとともに、うめきた2期区域のまちづくりの実現に向けた取組みということでご議論いただきたいというふうに考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それから、本日、傍聴の方が、定員10名ということでございますけれども、それを超える傍聴の方が来られてますので、これは、この傍聴を認めるということで行きたいと思いますが、橋下部会長のほう、それによろしゅうございますでしょうか。

#### 橋下大阪市長

はい。

#### 佐藤都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。

それでは、会場の傍聴の方々を初め、報道関係の方々、多数、ご来場されておりますので、皆様方のご理解をいただきながら会議のほうを進めてまいりたいというふうに思いますので、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

それでは、議事に先立ちまして、本部会の部会長であります橋下市長より一言、ご挨拶をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

## 橋下大阪市長

おはようございます。

本日は本当にお忙しい中、このようにお集まりいただきましてありがとうございます。このうめきたの2期の問題なんですけれども、なかなかこれまで行政も旗を振る力が弱くて進まなかったところもあるんですが、今回、皆様のいろいろなお力添えをいただきまして、大阪市、大阪府、頑張って、今、この計画を進めているところであります。

今日、やっこの公募条件というんですかね、それがある程度まとまりまして、当初、僕がまた知事といろいろ話をする中で思い描いていた「みどり」を中心とした、そして、また世界に誇れる斬新なまちづくりの中核になるような、そういうエリアにしたいという、そういう思いを反映した公募条件になってるかと思えます。

まだまだいろんなご意見があるかと思えますので、皆さんにご意見をいただきまして、何とかこの大阪という狭いエリアだけではなくて、関西、もう一つ超えて西日本、もっと超えればアジアのと言いたいところなんです、僕は本当にそれぐらいの中核拠点になることをめざして、経済界の皆様、民間の皆様の力添えをいただきながら、何とかこのまちづくりを進めていきたいと思っております。今日もいろいろなご意見をいただきながら実りある会議にしていきたいと思えますので、よろしくお願ひします。

## 佐藤都市計画局長（大阪市）

ありがとうございました。

それでは、協議会の、部会の構成員のほうに変更がございましたので、私よりご紹介をさせていただきます。資料Ⅰの構成員名簿のほうをご覧いただきたいと思えます。

内閣官房地域活性化統合事務局局長、加藤様にかわり川本様のご就任されておられます。本日はその代理といたしまして福島次長様にお越しをいただきましてありがとうございます。福島様、よろしくお願ひいたします。

次に、国土交通省近畿地方整備局局長、谷本様にかわりまして池内様のご就任されてございます。池内様、よろしくお願ひいたします。

次に、日本郵政株式会社取締役兼代表執行役社長、齋藤様にかわりまして西室様のご就任されておられます。本日はその代理といたしまして井上執行役様にお越しをいただきましてありがとうございます。

本日、ご出席いただいております皆様のご紹介は、お手元の配席図をもちましてかえさせていただきますと思います。

それでは、早速でございますけれども議事に入らせていただきます。

本日の議題は2つございます。

1つ目の議題は、うめきた2期区域開発に関する民間提案募集についてでございます。

これまでの部会での議論を踏まえまして、府・市、それから関西経済連合会、大阪商工会議所、関西経済同友会からなります実行委員会を立ち上げて検討してまいりました。本日、この場をもちまして、募集要項の公表として募集を開始するものでございます。本日は、その内容を報告させていただきます。

もう一つの議題は、うめきた2期地区の質の高いまちづくりの実現に向けました取組みといたしまして、先月、府・市から国に提案をしております国家戦略特区プロジェクトの内容、それから、大阪版B I D制度の検討内容についてご説明をさせていただきたいと思っております。こうした今後の取組みについてご議論をいただきたいというふうに考えてございます。

それでは、担当部長のほうより配付資料の確認並びに説明をさせていただきますので、よろしくお願いたします。

## 2. 議題

- ・ うめきた2期区域開発に関する民間提案募集について
- ・ うめきた2期地区開発に関する今後の取組みについて

### 安藤うめきた整備担当部長（大阪市）

うめきた整備担当部長の安藤と申します。どうぞよろしくお願いたします。

それでは、お手元の資料の確認をさせていただきます。

～ 資料確認（省略） ～

それでは、資料に沿って説明をいたします。

～ 資料説明（省略） ～

### 佐藤都市計画局長（大阪市）

説明は以上でございます。

民間募集の件につきましては、一定、専門、こちらの実行委員会のほうでかなり、詳細も含めて議論をしてまいりましたので、一定の報告という形をとらせていただきたいと思います。

特に後段でご説明いたしました今後の取組みを含めまして、この提案をいただいて、今後、どう進めていくかというあたりを中心にいろいろとご議論をいただけたらというふうに思っております。

### 森会長（関西経済連合会）

関西経済連合会の森でございます。どうぞよろしく申し上げます。

今、事務局のほうから提案募集要項、それから、大阪市から、府・市が出しております国家戦略特区プロジェクトの提案についてのご説明をいただきましたが、提案要項については、中身については特にこれで結構かと、ご報告ということでありましたけれども、特に問題ございません。

まず1点、国家戦略特区プロジェクトの提案についてですけれども、その中でかなりうめきたの将来像というのが出てきているように思います。そういう意味では、その将来像につきましては、関経連としても大いに賛同したいというふうに思っています。

関経連も実は国家戦略特区の要望を行っておりますけれども、その中でやはり関西再生のためには、世界随一の個性的な国際都市、こういうことを形成する必要があるということで提案してございまして、うめきたはそのヘッドクォーター的な役割を果たすべきということで、我々が提案するに当たりまして、府・市ともかなりすり合わせをした形で、同じような方向での提案ができてるというふうに思っております。そういう意味から、できましたら、そういう将来像を共有して、オール関西で具体的な検討を進めるべきではないかなというふうにも思っております。

それから、もう1点、これ、提案募集要項そのものについては、先ほど言いましたように異論ないんですけど、提案募集をすることを通じて、ぜひ、うめきたの知名度をさらに上げる取組みをしていただきたいと思いますというふうに思います。結構、グランフロント大阪がオープンして、非常に関西の新名所としてにぎわっておりますけれども、うめきたそのもの

は、まだまだ知名度という意味では、特に東京のほうへ行きますと、それほど高くないのかなというふうに思いますし、国際的にもそれほど、決して高いと言えるような状況にないと思います。そういう意味で、ぜひ、この募集活動を通じて、うめきたの知名度というのを上げていただきたいというふうに思います。

関経連といたしましても、会員へのこういう募集要項の説明を含め、いろんな形でPRする活動を取り組んでいきたいというふうにも思っておりますので、ぜひ、今日、ご出席の皆様方もそれぞれの機会を通じて、うめきたの知名度を上げるという、多くの方に周知していただくという取組みをしていただけたらというふうに思います。

私からは以上です。

### 鳥井代表幹事（関西経済同友会）

関西経済同友会の鳥井でございます。

関西経済同友会がかねてから主張しておりました「みどり」に対して、少しコメントをさせていただきたいと思います。

4月の地域部会の資料を見ておりますと、次の文章がございました。2期区域全体を「みどり」で覆い、大阪駅前にシンボリックで、訪れる人々が実感できる「みどり」空間を創出する。そのように書かれていたわけですが、市長のそのときのご発言で、ぶっ飛んだ「みどり」ということをおっしゃいました。しかし、ただ今回の緑豊かなオープンスペースという表現だけで、本来意図していたような大規模な「みどり」という考え方が十分に伝わっているのかという点に関しては、少し「みどり」という観点におきまして心配もしているところもございます。この点、市長のほうに改めてお考えをお伺いして、ご指導を賜りたいと思っています。

また、関西経済同友会はお手元にお配りをしてます資料がございまして、「都市と再生～みどりと文化を考える」市民連続講座と、こういうのをお手元にお配りをしてますけども。大体、毎回、200名の参加を得まして、連続5回の公開市民講座を開催してまいりました。多くの市民の方々の期待を感じておりますところでございます。

また、前回の市長のお考えもいただき、ご参考にしながら、6名の専門委員を集めましたみどりの専門部会というものを発足、スタートいたしました。この提言内容を年度内にまとめまして、「みどり」に関してですね、ご報告を申し上げたいと思っておりますので、ぜひ、2次募集のときの方針の中に活用していただきたいと思います。

関西経済同友会でございますけれども、これは提言団体でございますして、ある種、夢と未来を見て、既成の概念にとらわれないような提言をいたすことをずっとやってまいりました。今回の17ヘクタールの巨大なうめきた2期の土地と、これにつきましまして、土地の購入にお金がかかるとか、「みどり」の植栽にもお金がかかりましようし、メンテナンスにも巨額の費用がかかるということは、もちろん私どもも承知をしております。この提案も現実的に困難を十分に認識する必要があるかと思ひます。

しかし、一方、理想といいますか、という点を考えますと、例えばでございますが、セントラルパークなしにニューヨークはあり得なかつたでしょうし、ハイパークなしにロンドンもあり得ないでしょうし、あるいは皇居、新宿御苑、明治神宮の緑なしに東京もあり得ないということを考えますと、世界的な都市の設立には巨大な緑の空間が、いわゆる必須の条件であるというふうに考えております。

そういう点で、大阪を世界的な都市にしていくと、大阪を世界にアピールしていくということを考えますと、国家百年の大計に立つて、やはり「みどり」というものをうめきたの中心に置いていくということが必要であるかと思ひますので、かかる観点からも着実に「みどり」の計画が進められますように、行政におかれましても財源の確保であるとか機能整備を、ぜひ、お願いを申し上げる次第でございます。

以上です。

## 橋下大阪市長

「みどり」の件いいですかね。これ、安藤先生と小林先生が審査員を務めていただきますので、ぜひ、変なせこい財政の議論に、行政のほうは多分そっちのほうに引っ張っていかうと思ひますから、余りそっちに引っ張られずに、斬新なアイデアというところをもう、やっぱりちょっとそこは安藤先生や小林先生のその感性でどんとしたものをお願いしたいと思ひます。

言つても、これ、土地の値段で、目先のお金のことで開発利益を狙おうなんていうことをやつても、将来、50年、いや、100年のことを考えれば、そんなことは後で起債を打つなり何なりして、みんなでその負担を、後年の人に、そこは負担を僕は負つてもらつてもいいと思ひますのでね。そういう意味では、ちょっと目先のその財政議論というところに引っ張られずに、本来のあるべき姿というものをめざしていただきたいんですけども。よろしくお願ひします。

## 安藤忠雄氏（建築家）

今、市長が言われましたように、私、これ、なかなか思い切っていけないかなと思いましたが、これは、ニューヨークのセントラルパークが1853年に計画したものですけども、これがちょうど0.8キロの4キロあるんですね。今度のはもっと圧倒的に大きいやないですか。そのことを考えると、かなり覚悟をして、これから100年、200年の後の大阪のことをしっかり覚悟してつくらねばならないと思います。それにも十分できるだけの場所なんですね。

もう1つ、今、前から「みどり」の都市と市長さんも知事さんも言っておられますが、現に、私は大阪を歩いていていつも思うんですが、随分多いでしょう。かなり増えてるんですよ。特にマンションの前なんかずっと緑になっているシステム、あまりよその都市には見受けられないですね。あれも含めて、マンションができるたびにどんどん緑が増えていきますので、あれをもっと強化してもらおうとかすると、市民が持っている住宅から、それからああいうマンションのような大きなものから、そういうのもみんな、市民も参加すると。同時に、この大きなうめきたのところに大きな「みどり」があるとするならば、私は、大阪は緑がない、緑がないというたら20年ぐらい前の話なんではないかなと思ってるんですけどね。

日曜日に新橋から公会堂のところまでずっと歩いて、うめきたまで歩いたんですけども、なかなか緑も多いし、快適なまちだなと思えますね。私は大阪生まれの大阪育ちだから、そういうふうになってしまうのかもわかりませんが、御堂筋を見て育った我々にとっては、大変大きなまちづくりができて、今度、うめきたにこれだけのものができればいいなと思ってますが。

ただ1つ、このコンクールをするときにちょっと注意しとかないかなのは、外国の人が見たときに、当選したら自分で勝手にやっているとってしまうでしょう、多分。これ、2段階になってますよね。大体、建築の設計家とか都市デザイナーというのは、大体、自分勝手に解釈していきますからね。そここのところを強調しとかないと。まずイメージで通っても、それからプログラムをつくってチームをつくっていかないかなということが、あまりこういうシステムはないんですよ。これは大阪にとって新しい流れだと思って私はいと思うんですが、よほどしっかりと、要項を渡して申し込んできたときにもう1回、こうなるとるんだぞというぐらいに外国の人には言ったほうがいいんじゃないかと思えます

ね。どうしても当選したら、もう自分の言う通り、勝手にチームは大阪市がつくってくれるぐらいのことを考える。2段階目を忘れてしまう人がほとんどですから。ここを注意しとかないかと。私も設計家ですから、私も設計家ならば大体2段階目は忘れていくんじゃないかなと思いますので。新しいシステムですからね、これは非常にいいと思うんですよ。なかなか、絵を描くほうも自由に描けますから。その2段階目だけを注意していただければ、私はかなりいいんじゃないかと思ってます。

もう1つ、やはり市長さんなり知事さんなりが「みどり」の都市大阪になってきたと発信、いつも言うてもらわないと。これからやるというんじゃないし、もうなってるんですよ、現実。だから、うめきたで、今、この間、きのうも東急電鉄の開発部の人たちが10人ほど、その前にも東京の経済界の人たちが20人ほど、うめきたのあのずっと案内したんですね。インターコンチのところから来ると、大阪ってすごい緑が多いなど。あそこ、ずっとイチョウ並木が並んでるのを見て、あれから言うと丸の内よりはるか大きいですよ。だけど、何か大阪の人は、丸の内はいいけど大阪はあかんというふうに大阪市民が言ってるからまずいんじゃないですか。大阪市民に、大阪は丸の内よりいいですよということをしっかり言えるように、上から言っていただくと市民も自信を持ってくるんじゃない。今、市民は自信ないですよ。だから、そのあたりも含めて、上のほうから発信してもらおうと。ほんで我々もサポートすると。現に、間違いなしに大阪は緑が増えてます。間違いなしだと思います。

だから、そのことを含めてもう1つ、やっぱり前に橋下市長と一緒に話をしていたときに、中之島大川がきれいになったら2人で飛び込もうかという話がありましたね。やっぱりあそこをもうちょっと、大分きれいになりましたからね。もうちょっと、カヌーとか、昔はボートだったんですけど、カヌーがあったんですけど、カヌーがなくなりました。ああいう川に、ちょっと子供たちが川に親しむようなものも含めて考えてもらおうと、より一層よくなると思うんですよ、北区は。今、あれ、何でやめたんですかね、カヌーとかあったでしょう。あれをもっと水に親しむ子どもたちということでいいんじゃないかなと思って、積極的に行政のほうから発信していただくとメディアもついてくるんじゃないかと思ってますし、メディアの方々には、それをいいほうをきっちりと発信してもらわないと。足を引っ張ることばかりしてもうても困ると思ってます。いいでしょうか。



### 佐藤都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。海外の方については、少し別紙で目立つようにするなり、ちょっといろいろな工夫を考えてみたいと思っています。

### 安藤忠雄氏（建築家）

何か私が海外の人はそういうふうに誤解しないかなと思っているだけなんですけど、同時にここにおられる方々も含めて、東京の人たちも含めて、自分の知り合いが海外にいる人は海外に、私なら私もあっちこっち行っておりますから、海外の人たちにこのコンペの要項を渡してくると。そして、必ずご本人が出してくださいよとか、必ず、数を言うていくと結構出ますよ。結構出ますよ、これは書きやすいですから。だから、世界中の何カ国が出してきたかというのは大事でしょう、やっぱり。ねえ、100か国ぐらい出してきたとか、こういうふうに見えるように努力、私もします。世界中から集まってきたら、結構メディアも乗ってきますからね。

### 佐藤都市計画局長（本市）

ぜひ、そこはもう我々として、事務方としても力を入れたいと思います。

### 安藤忠雄氏（建築家）

私もやりますから、お願いします。

### 橋下大阪市長

ちょっともう一遍いいですか。ちょっとしつこいようなんで。なかなか審査前にもうお話しできることはないんですかね、もうこのまま審査に突入して、また次は結果ということになるんですかね。

結局、税金を突っ込んで巨大な箱物を建てる話じゃありませんから、どこまで民間の人に土地を購入してもらって、どこまで土地について行政が金を出すかという話の部分だと思うんですけどもね。審査をしていただくときに、行政が金を出す話は、もう一切そこは考えずに、いわば行政が金を出すのをなるべく少なくしようとか、そういうことは抜きに、本当にシンボリックになる空間という、その1点で審査をしていただけたらなと思うんです。

土地はだから行政がこれ、購入をどんどんしていても、僕はもう後年の、その次世代のメンバーに負担してもらってもしかるべきだというふうに思っていますので、何か変な箱物を建てて借金をして、全部、次世代に借金を負わせるって話とは全然別物ですからね。

ですから、これ多分、開発利益と行政が金を出す話を、どこまでどっちが金を出すねんということになると思うんですけども、とにかくお金の話は、ちょっと行政が金を出す話というのはもう全然横に置いていただいて、とにかくシンボリックな空間というもので、ああ、やっぱりここはすごいなというのがずっと続くような、そういう空間のその1点で、ぜひ審査をしていただけたらなというように思うんです。

恐らくこれ開発利益との兼ね合いでしょう、これ。計画でどこまで民間の開発をやってもらって、その分、できる限り行政の金を抑えるかというところとこうなると思うので、そこは起債を打っても大丈夫ですよ。理解してくれると思いますよ、後年の人たちは。

#### 佐藤都市計画局長

市長がそう言っていたら。

#### 小林教授（東京都市大学）

先ほど、安藤先生から、海外も含めて提案者を募集するときに誤解のないようにというお話がございました。極めて新しい方式なので、まさに先生のおっしゃるように誤解なきようにということです。

もう1つの誤解というのは、よくこういう募集するときアイデアだけ募集するという、コンペティションがあるんですね。今回それではない。しっかりとしたアイデアを出した人が具体的に提案する事業者になれるんだという、その点をぜひ強調していただきたい。よくあるんです。アイデアだけ募集します。アイデア、皆さんから吸収したけど、その先、どうなったかよくわからないコンペティションがあるんですけどね。そこもまた強調していただきたいと思います。

それから、1点ですね、今後、恐らく「みどり」についていろいろ質問が出されると思うんですね。先ほどのご意見もちょっとあったんですが、この「みどり」そのものについては私は特に、この表現でいいと思うんですが、審査するときに、たまたま私は10年前に東京都の「みどり」のマスタープランを書いたんですね。なぜ括弧つきにしたかという、緑というのは水と切っても離れないということで、水面、水の面も緑の要素として考

えましようというマスタープランの考え方に入れたんですね。

ですから、東京にいる人はもしかすると「みどり」というのは、そういう緑のことを言っているのかと誤解か、あるいは正解かちょっとよくわかんないんですけど、その辺、これから安藤先生と審査していくときに、水と緑との関係をどういうふうにかけて、特に大阪は水の都、水都ですね。そのときに、水と緑は切っても切れない関係にありますので、その辺をどう考えるかというのは、審査員も少し考えさせていただきたいと、こう思っています。

それからもう1点です。B I Dにずっと関わっておりまして、B I D、とにかくどういうふうにつくり上げるか、全国初ですので、今まで実践していません。具体的にエリアマネジメント組織が一定の財源を確保して、全国各地でやっております、その団体が、今、私がたまたま呼びかけて全国から集まってきてます。今、議論してます。その中で、今、一番注目を集めているのは、ここ大阪のB I Dの制度構築でございます。2回ぐらいご紹介いただきました。非常に興味を持って、今、東京都と横浜市と大阪市は、その会議に行政として参加いただいて、それ以外はほとんど民間なんです。先日、事務局から連絡が来て、B I Dに興味があるから名古屋市も福岡市も参加したいと言ってます。

私はこれは大変いいことだと思って、実は国がもしB I Dを本格的に確立するとすると税制をいじらなければならないんですね。今回の第2段階目というのは税制をいじってないんです。皆さん、分担金を出しましょうというレベルで税制をいじってないんですね。税制をいじるということは、国の方から特に釘を刺されてますけど、1年とか2年ではできません。3、4年かかりますと言われてますので、そのため、税制を含めた新しい第3段階に持っていくためには、大阪市がまずやって、それを東京都、名古屋市、福岡市、横浜市がまねて制度をつくって、全国的にそのニーズが高いという機運を生み出すことがぜひ必要で、そういう役割をぜひ大阪市に持っていただきたい。これは希望でございます。以上です。

### 橋下大阪市長

これ、角さんのほうからやってもいいんじゃないかというようなご意見もいただいて、それで行政のほうに、組織のほうに制度をつくってくれという話で、こういう制度に今なってるんですけども、あとは本当に角さんをはじめ、その地権者の皆さんが使いやすい制度になってるかどうか、僕、最初説明を聞いたら、これは複雑過ぎて。でも、現行法で

はこれがもう限界だという話だったので、また国の皆さんにもちょっとこのB I Dの制度について、もうちょっとわかりやすい制度にするためにはどうしたらいいのかということ、また国のほうにも提案していきますけど、地権者の皆さんにもこれで本当に行けるのかどうかというのは、そこは調整してやってもらってるんですかね。

#### **佐藤都市計画局長（大阪市）**

実はうめきたのこの1期開発に携わっておられた、それに関連する企業さんに入っただいて、今日も来ていただいている会社のかなりの方に入っただいて、小林座長の委員会にも、常時、そのメンバーが常に議論を聞いていただいていることでやっていますので。皆さん、その内容については熟知されており、次、実際にこれ条例をつくって来年度から立ち上げるときに、その母体としてはもうあるものだというふうに思っております。

#### **橋下大阪市長**

じゃあ、また、ちょっと条例化をめざしてやっていきましょう。

#### **林常務執行役員（三菱地所株式会社）**

いろいろ聞かせていただいているんですけど、希望だけ言わせていただくと、やはり今、先生、おっしゃったその税制の優遇の面で、どうしても3段階からなってしまうということなんですけれども、実際、私ども、グランフロントでタウンマネジメントをやっているんですけれども、ほとんどが大半は民間の地権者からの費用負担でやっているんですね。そこへ新たな負担ということになりますと、やはりどうしてもその税制優遇と、いわゆるセットでないと、なかなかこれ以上の負担というのは厳しいなというのがちょっと実態としてはあります。

#### **橋下大阪市長**

わかりました。

#### **林常務執行役員（三菱地所株式会社）**

ぜひ、そこは早期にやっていただければと思っております。

## 松井大阪府知事

ちょっとかぶるんですが、審査いただきます安藤先生、今回のこの中では配慮する区域というのがちょっとどうしても、これ実際に提案するというと、こういう周辺区域というのはこの枠で区切られると思うんですけど、ちょっと圧倒的なところで行くと、やっぱり大阪府域というのもちょうと考えの中に入れていただいて。

これ、やっぱり市長が圧倒的な、将来世代に負担というのも、そら、ありだと思っんですけど、これ一緒にやっていく中ではやっぱり府域の皆さんもね、これ将来的には負担の対象になります。

これ、まさに大阪の入り口、玄関で、それが府域全体の、府民全体にもそういうイメージを持てるような、そういうところはぜひ、僕はちょっとそういうイメージがわかんですけども、そういうイメージを発せられるような、そういう作品というのは、ぜひ、選んでいただくための1つとして考えてもらいたいと、こう思っております。

## 大西支社長（都市再生機構）

企画会議のメンバーとして参加させていただいて、今回の原案を検討してまいりましたメンバーの1人でありまして、UR都市機構の大西でございます。

今回、企画会議の中で議論をしたことも踏まえ、今日、橋下市長からご意見をいただいたことも踏まえて、幾つかの点について誤解が生じないように、あえて確認をさせていただきたいと思っております。

まず1つは、これは私自身がうめきた地区で、今回、こういう募集をするよということをお東京の方々にも宣伝をして歩いている中で実感をしたことですが、提案の内容は実はその企業にとってみると、相当考え抜いて提案をするというのは本来であるけれども、このような形で提案をしたときに、それが周りの人たちに周知されてしまうのではないかと。つまり、本当は競争をして、最後の2次募集のときに本音を出したい。だけれども、その2次募集ができるような形で、1次募集のところで2次募集の提案条件を整備しておいてもらわなければならないので、そのためには、その内容をある程度示さなければいけないけれども、それが完全に周知されてしまうのではないかとという不安があって、ここで力を入れて作業をしても、結果的には無駄になってしまうんじゃないのかという意見が社内であるという意見をいただいております。

ですから、それに関しては、募集要項の中で、きちんとそれらの内容については保護さ

れる。そして、概要しか公表しないということやうたっているということ、きちんと東京の方々にも公表をして、それから、審査員の方々には当然のごとく、それらについての守秘義務も負うと。そして、対話の中でも、こういうメンバーは対外的には当然もらさないということやきちんとお約束をするということが、たくさんの方に参加をしていただくために非常に重要だろうということを実感しています。それが第1点目です。

それから、第2点目ですけれども、今回は「みどり」のことが非常に大きく注目を浴びていますけれども、もちろんそれも非常に重要です。ただ、今回、国家戦略特区の中で位置づけとしても非常に重要なのが大規模災害に対する防災ということですので、そのことについても、実はこのうめきた地区というのはほうっておくと災害に弱いエリアなんですね。そして、鉄道駅のすぐ隣接したところにある。前に、3.11のときに、東京では鉄道駅ターミナルで追い出された人たちが一夜を明かさなければならないとか、いろいろな問題点が発生をしました。

それらを全て踏まえた上で、大阪駅の人たちが、実はこのうめきた地区の中にある施設なり防災公園なりにきちんと入ることができ、なおかつ、そこでは、例えばトリアージスペースのような、緊急度に応じた処置を受けられるようなことができる。もしくは、場合によっては防災備蓄倉庫から何かが出されて、毛布をかけて、そこで一晩明かすことができるというような、さまざまなご提案をここでしていただくことが必要だと思っていますので、そういうような防災、災害に強いということについても、ぜひ、強く宣伝をしていただきたいというふうに思っています。

それから、3番目に「みどり」のことについてです。今日、橋下市長からこういうご発言がありましたので、誤解のないようにきちんともう一度説明をしたほうが良いというふうに思っていますのは、事業実現性のところで、いただいているペーパーで言うと18ページになりますけれども、「みどり」の創出と管理運営の公民の役割分担ということが書かれています。

これについて提案をするということになっていて、それをどう評価するかという評価の視点というところでは、29ページのところに、第4、評価の視点（5）のところの③真ん中、「みどり」の創出及び管理運営に係る公民の役割分担のところ、2行目に、「民間事業者による公的役割の分担も含め」というふうに書いてありますので、これは実は企画会議の中では、公的な機関の負担が少しでも少ないほうが良いという評価項目にしてはどうかという議論もなされました。

ただ、そうではなくて、本当にそこの「みどり」が、ここの将来的な地域にとって役に立つすばらしい「みどり」になるんだということを前提として議論をするんですよと。ここで言っている公民の役割分担というのは、実際の日常生活、もしくは防災ということにおいて、防災機能がいざというときにきちんと発揮されるような管理がなされている。もしくは日常の維持管理において、例えばけが人が出たとき、もしくは台風等で何かが壊れたときのその維持管理、補修は公的な機関がやる。もしくはそうではなくて、日常の維持管理の中でそこを豊かな空間にするための何らかの催しは民間がやると。

例えばそういうようなきちんとした役割分担みたいなことを提案を求めているんだという意味合いがきちんと伝わるような形にしておかないと、少しでも公的な負担が少ないほうがいいんだなというようなイメージで捉えられているところも、いろいろ見聞きしている中ではございますので、その辺のところは明確にしておいたほうがいいのかというふうに思っています。

それから、4番目ですけれども、ここは、この応募要項だけだと誤解を受けるかもしれないので、あえて、もう議論されている内容ですけれども申し上げたい点が、提案項目中の13ページと23ページの連動性についてです。

提案項目13ページでは、原則全ての項目について提案することということと、2つ目に、応募者がプランニングやデザインのみを専門とする設計者やコンサルタントのみで構成している人は、まちのプランニングやデザインに関する項目についての提案だけでもいいですよというふうに言っています。

これと23ページの優秀提案者のところを見ると、優秀提案者Aは総合的に優秀な提案で、優秀提案のBは実現性やまちの運営管理に関しては別途検討が必要であるが、プランニングやデザイン等について特別な優秀な提案があるというふうに書いてあるので、これをこのとおり素直に見ると、応募者がプランニングやデザインのみを専門とする人の提案だけが優秀提案者Bになるということなんですよというふうにも読めてしまうんですが、そこはそうなんですか。

そうではなくて、全ての提案について提案したけれども、事業実現性のほうについては少し怪しいが、非常に光る内容の提案のある、その人は提案者Bとしても採用するということはあり得るんですよということなのか。

全体の提案をしていて事業実現性がないのであれば、それはむしろ優秀提案者Aの中での競争ということで、その人はA Bともに入ることにはできないということなのか。ここに

については誤解を受ける可能性があると思いますので、明確にしておいたほうがいいかなというふうに思います。

以上です。

### 佐藤都市計画局長（大阪市）

幾つかご指摘いただいた点は、冒頭でもちょっと説明の中に言いましたけど、Q Aで整理をするというふうにしております。今、おっしゃった点、ないしは今日の中でご議論が出た点を、質問が出る出ないにかかわらず、Q Aという形で、具体的に答えを書いていくということで整理をさせていただけたらどうかというふうに思いますが、部会長、そういう形よろしゅうございますか。

### 橋下大阪市長

Q Aでよろしいですかね。じゃあ、それで。

今の点で、大西さんが非常に重要なご指摘いただいたと思うんですけど、公的役割の負担のところなんですけど、企画会議とかそういうところまで僕は詳細にそんなところまで把握してませんからね、皆さんでいろいろ議論を積み重ねたときに、都市計画局としてはシンボリックなものをやりたいとしても、必ず財政局のほうがお金の話とかも入ってくるでしょうし、また、これ府と市で連携してやろうということになれば、府の財政当局の話もいろいろ出てくると思うんですよ。

だから、繰り返しになりますけども、民間のほうのそのお金を最大限活用して公はできるだけお金を出さないようにというところが入った瞬間に、何かちょっとシンボリックな空間というところから離れていくようなところもあると思うので、今日、鳥井さんからもご指摘ありましたけども、さっきの公民の役割分担というのは、先ほど言われたお金とかそういう話じゃないところの役割分担で、ちょっとその財政議論で引きずられるようなことだけは、ちょっとなくしてもらいたいというところがありますので。

多分そういう議論はもうしていただいていると思うんですが、ただ、これだけ市役所とか府庁みたいに大規模な組織になると、財政のほうは、財政当局のほうは財政の話を持ってくるとは思いますんでね。そこは最後、知事と僕のほうでまた指示を出していきますから、そこに引きずられないような形で進めてもらいたいんですけどもね。

ただ、何でもかんでも開発がだめだというわけじゃなくて、それはもうまちづくりとし



て必要なものは、しっかり安藤先生や小林先生のほうに審査してもらわせよ、財政議論に引っぱられるというのは今回のプロジェクトではちょっと違うと思いますのでね。

**松井大阪府知事**

これ、でも、提案してこられる方は、そんな余り財政議論を考えずに提案してくるから、出てきた後で考えていく。

**橋下大阪市長**

ええ、そう、そうですね。その審査でね。

いや、府の財政当局が一番何かいろいろ言ってんじゃないですか。府の財政。

**松井大阪府知事**

いや、だから、とりあえずは出てきたもんは、それは見させていただいて、どこまでの負担ができるかは、また後で考えたらええ話なんで。

**橋下大阪市長**

いやいや、だから、それを審査員の先生にそこを考えてくださいというのは違うじゃないですか。

**松井大阪府知事**

だから、安藤さんは自由にやっていただいて、ええ。だから、その出てきてからお金の話をまた、大阪市、いっぱいお金あるし、また。

**橋下大阪市長**

いや、ないです。

いやいや、だから、そこをちゃんと審査員の先生にこの場で言うておかないとね、その財政当局のほうで、とにかく公のお金は少なくという話になってくると思うので。

**角代表取締役社長（阪急電鉄株式会社）**

市長から非常にありがたいお話をいただきまして、質問をしようと思っていた内容はも

う取り下げるんですけれども、ただ、その収支計画の中で適切な前提条件を設定する。そして、導入する都市機能のボリュームについてというふうなことでございますので、我々としては、ですから、じゃあ、地元行政負担がどうなるのかとかいうことも、ある程度クリアにさせていただかないと、非常につくりにくいなと思ってたんですけれども。

ですから、今、市長のご発言をいただいた上では、要するに、我々が最適と思う提案をさせていただいて、対話の中で、この辺はちょっと無理だからもう少し維持していく、私どもも前に言いましたように、ここを開発利益を取ろうなんて発想は全くないんですけれども、ただ、そのプランを出すときに、対話の中で、ここはもうちょっと都市機能を入れないと維持できませんねとか、そういうなのは、その場でやっていただけという理解でいいんですか。

#### **橋下大阪市長**

はい。

#### **角代表取締役社長（阪急電鉄株式会社）**

ありがとうございました。

#### **佐藤都市計画局長（大阪市）**

そのように、提案は自由に、その提案を踏まえてどういう仕組みにしていくかというのは、対話方式ということ今回採用してございますので、その中で我々の行政側の、お金の話も含めて、その提案が損ねないような形のものにしていくというのが我々のほうでさせていただくというご理解、それでよいかと思います。よろしくお願いします。

#### **橋下大阪市長**

いいですか。僕、ここ、こだわってるんですけどね。いや、これトップが、トップがどうか、この協議会である程度の方針というか、メッセージを出しておかないといけないのが、やっぱり提案って民間企業の皆さんは物すごいもう緻密にやってこられますから、もしかすると公の財政をなるべく少なくしたほうがいいんじゃないのかなとかいうふうに余り思われなような、そういうメッセージの発信はしっかりやってもらいたいんですけどね。

もちろんそのあたりは対話で、もう専門家の皆さんがいろいろ最後は詰めるんですけども、その大きな方針としては、その公の財政というものを意識すればポイントが高くなりますよというようなことにはならないようにしてもらいたいんですけどね。

#### **佐藤都市計画局長（大阪市）**

わかりました。

#### **真鍋代表取締役社長（西日本旅客鉄道株式会社）**

J R 西日本の真鍋でございます。今回の募集において、基盤整備ということで地下駅、地下化、新駅設置ということで、ありがとうございます。しっかりやらせていただきたいと思っておりますが、当社が工事を進めるということになりますけれども、その前提になりますものとして、恐らくこの地下の埋設物というのか、インフラ整備の下水ですとか、そういった大規模なものが必要になるのではないかと思います。そういったものが先行になされた上で、多分私どもの工事が進むことになると思いますので、そういった点もぜひよろしくお願いしたいと思っております。

それから、もう1点、URさんから、先ほど、お話がありました防災の件でありますけれども、今、例えば大阪駅は3,000食ほど備蓄をしたり、いろんな、寒いときの毛布ですとか、そういうものも用意しておりますけれども、あくまで、これ一時的な避難場所で、最終避難場所というものがございます。グランフロントもその1つということになっておりますけれども、津波の場合に本当にこのグランフロント地域が最終避難地域になるのかどうか、この辺がちょっと明確ではないのではないかと思っておりますので、そういったこともあわせてご議論いただければよろしいのではないかと思っておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

以上です。

#### **橋下大阪市長**

J Rさんのほうに、ちょっと僕もこれ局には確認してないんですが、新駅設置のその意義というものが、単に貨物線を下におろすということではなくて、あの新駅というものは、関空アクセスへの何か改善ということという位置づけにはっきりなっているのかどうかということ局には確認してたんですけど。あそこはそういう趣旨でよろしいんですか

ね、新駅というのは。

**真鍋代表取締役社長（西日本旅客鉄道株式会社）**

はい。当然、大阪駅と一体の駅というような使い方をしたいと思っております。残念ながら、今、はるかとか、そういったものが新大阪でないと乗られない、天王寺まで行けないと乗られない、こういうことになっておりますので、そういった意味でのアクセスの改善ということにはなると思っておりますので、そういうご理解で、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

**橋下大阪市長**

それは正式にJRさんからはこれ、新駅のこの設置に関しては、その関空アクセスの改善というような位置づけにはなるんですかね。この、うめきたのこの、今、地下化の話の中で。

**真鍋代表取締役社長（西日本旅客鉄道株式会社）**

我々、そういうことを前提にお話をさせていただいてます。

**橋下大阪市長**

また、そういうことがきちっと位置づけを出してもらったほうが、府とまた一緒にやるというお話の中でもいろいろそこに影響してくると思ひますので、きちっと明確化してもらったほうがありがたいんですけどね。

**佐藤都市計画局長（大阪市）**

わかりました。

**橋下大阪市長**

市役所の市議会の中での議論とかだと、どちらかというと、もうあそこの地域の、まちが今分断されてるものを接続させるとか、あそこの中津の地域と梅田地域を、ガードが小さいので、あそこが地域がつながるとか、そういう話になって、物すごいあそこだけの話になってますけども、新駅というものはそうじゃなくて、ちょっと広域な話であり関空ア

クセスの改善なんだというものが、もうちょっと明確化すべきなんじゃないかということ  
は問題提起、僕はずっとしてたと思うんですけども。

#### **佐藤都市計画局長（大阪市）**

ちょっと行政的で恐縮なんですけど、いわゆる連立事業で地下化にする部分と新しく駅をつくるというのが、別の事業をあそこでセットでやろうということですので、この間、市長が言われたのは、その地下化の部分だけを捉まえて踏切がなくなるとかいう話になってるんですけど、それプラス、やっぱり新駅をつくるというのが、ここがやっぱり広域的な拠点事業ということで、これは国のほうにはご理解いただいているんですけど、少しPRのほうを、もう少し我々としても考えていきたいと思います。

#### **瀬川理事（鉄道建設・運輸施設整備支援機構）**

ちょっと今の議論と少し流れが変わってしまうかもしれませんが、おかげさまをもちまして、先般もご報告させていただきましたが、3月16日に、梅田の貨物駅の機能、これを吹田・百済のほうに移転することができました。ありがとうございました。

今、梅田の貨物駅の撤去工事を、今、進めてございます。一応12月末までには大体、上にあるものは大体どけられるかなというふうに思っておりますので、全体が更地化のような状態に見えると思います。また、地下にはいろんな基礎とか何んか残った状態ですが、そういった状態になると思いますので、ある意味じゃ開発空間の全体像が少しお見せできるような状態になるのかなと。先ほど、PRのお話もございましたので、そういったところと関連して、いろいろまた検討させていただきたいと思います。

一応、私どもといたしましては、平成26年度末を目途に、完全更地化をしまいたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。また、その次の話になると思いますが、その後、速やかに土地処分を進めていきたいというのが私どもの願望でございます。この点につきましても、今後ともご理解とご協力をぜひともお願いしたいと思っております。

#### **井上執行役（日本郵政株式会社）**

今回のこの開発の評価の視点の中で、周辺地域との一体的なまちづくり、周辺への波及効果、うたわれてらっしゃるということで、先ほど、知事がおっしゃった府域全体という、経済効果とか、いわゆる情報発信効果とか、大変な効果を期待されている、私どももそう

いう期待をしておるところです。もう少しブレークダウンしまして、今回のこの最初の区域ということの中で考えさせていただきますと、やはり今回、このうめきた2期ということなんですけれども、やっぱり長いまちづくりのプロセスを考えていけば、当然うめきた3期とか、うめきた4期というのがあると。

ただ、それは今回の2期までのような大規模な開発ではなくて、今後は中小の地権者さんが協力したり、いろんなことをしながら、かなり苦労しながらやっていくというプロセスに入っていくと思うんですね。であるがゆえに、今回の2期がそういったことに対する促進になるような、またその周りの地域に対してもそういうことが促せられるような、そういった効果があって、やっぱりできたものを外から眺めていいものだとはわかるんですけども、本当に外国から来る人はその中から外を見るわけですよ。見たときにやっぱり戦略的に戦っているというのは、見たところのまちがどんどん更新されていく姿が見られるということが大きいんじゃないかと思っておりますので、ぜひ、そういうことを観点に考えていただけると、私ども、大変ありがたいなというふうに思っております。

#### **藤原代表取締役社長（阪神電気鉄道株式会社）**

阪神電車の藤原でございます。

先ほど来、これから募集要項の中でいろいろとPRをしていくと、こういうことなんです。BIDをやるということで、この地域の、今までですと地域の維持管理というあたりが中心になって、それ以上の部分についてのお金の使い方、集め方というのがなかったのが、今回、かなりのPRができるチャンスを得たと、こういうことなので、できれば理想はこうだというふうなことをぜひ言っていただいて、各地権者がこぞってこれに参加できるような、そういう気分になるようなところを醸成していただければと、このように思っております。よろしく申し上げます。

#### **福島次長（内閣官房地域活性化統合事務局）**

内閣官房の福島でございます。

本日、皆様方のご努力によりまして、提案募集の要項を示されたわけでございますけれども、今後、この提案によりまして、うめきた地区が防災機能にも配慮した国際競争力の強化に寄与する拠点として、都市再生が進められていくことを我々としては期待しているところでございます。

これまで、うめきた地区につきましては、私ども、特定都市再生緊急整備地域、そして国際戦略総合特区と、こういうものを指定してきたわけでございますけれども、今後とも、私ども、関係省庁と連携いたしまして支援していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

以上でございます。

#### **池内局長（国土交通省近畿地方整備局）**

我々としましても、今日は2期開発計画の話がございましたが、これが早期に実現されて、まさにこの地域がシンボリックな地域になると、大阪がより一層の国際競争力を有している地域になることを期待しております。

一方で、今日は防災の話が結構出ておりました。実は、私、もともとちょっと防災をやっているんですが、北大阪の地域というのは非常に地震、津波、水害に対して脆弱な地域でございます。今日は周辺地域の防災拠点という話がございました。ぜひとも、この地区が北大阪の防災拠点になることもご期待申し上げております。国交省といたしましても、さまざまな支援ツールがございますので、また具体的な形が見えてきた段階で、できる限りのご支援をしていきたいと思っております。

#### **中村企画観光部長（国土交通省近畿運輸局）**

近畿運輸局でございます。

先ほど、市長からもお話がございましたとおり、このうめきた2期地区に含まれております東海道支線の地下化と、それから新駅の整備というものは、関西の最大のターミナルでございます大阪、梅田エリアからの関西空港へのアクセスなど、その関西の交通ネットワークを大幅に改善するために非常に重要なものであろうというふうに私どもも考えております。

このため、その新駅の利便性をより高くしていくということが、このうめきた地区だけではなくて、関西全体にとっても非常に重要であるのではないかとこのように考えております。したがって、今日から行われます、うめきたの2期の提案募集に関しましては、再三お話に出ております「みどり」ですとか防災という非常に重要な観点に加えまして、その新駅へのアクセス性ですとか新駅を中心とした回遊性も含めて、その高い利便性を含めまして、その大阪、梅田のエリアが総合的に便利になるような提案が出てくることを私

どもとしても期待したいと考えております。

以上でございます。

### 佐藤都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。

それでは、ご意見をいただきましたので、募集要項については、これ、ちょっとこの形で公表させていただいて、幾つか指摘いただいた点は、QAであるとか、あるいは世界に対しては、この発信していく方法について、我々のほうで引き続きご協力いただきながら進めていきたいというふうに思っておりますので、よろしく願いをいたします。

最後に、知事、市長、何かございましたら。

### 松井大阪府知事

いや、もう。

### 橋下大阪市長

もともと市議会の議論の中では、このうめきたのところにどンドンビルを建てて、あそこをどンドン開発したらいいんじゃないかという議論もあったんですけども、とにかくあそこはシンボリックな空間にして、ソウルのチョンゲチョンじゃないですけども、チョンゲチョンをやったら周辺がどンドンまちづくりが広がって、以前の高速道路でどぶ川でふたを閉められてたまちの状況が、チョンゲチョンがああいうふうに川になった途端に周辺がこんなに変わったんですかってびっくりするぐらいなまちの変化が見られて。

前、僕はすぐどこかで見ってきたものを、すぐ言ってしまう癖の中でこれ、いや、もう、あそこはうめきたはもう、あそこにどンドンビルを建てて、あそこを開発していくということよりも、シンボリックな空間にすることによって、周辺にもっと波及効果で、やっぱり大阪の玄関口ですから、あの一帯がちょうどこのエリアで、線を引かれたところの内側がですね、どンドン町が変わっていくような、そういうような計画にしていってほしいということで、局のほうに、今、指示を出してこういう形で進めてもらってますので。

このうめきたが完成してから波及効果ということでもなく、もうこれだけ有名な先生方にも審査員についてもらって、これだけの話も進めてるわけですから、同時並行で周辺の地権者の皆さんにもご協力いただいて、本当にあそこで、線を引っ張ったあのエリアがど



んどん町が、ああ、変わってきたな、大阪が変わってきたなというようになるように、大阪府と市の行政マンの皆さんで、このうめきたと同時に周辺部分についても地権者の皆さんともちょっと話しながら、まちづくりというものをどんどん進めていってほしいと思いますのでね。大阪の玄関口ですから、あとはもう都市計画局と大阪府の住宅まちづくり部ですかね、ぜひ一緒にタッグを組んで引っ張って行ってください。

#### **佐藤都市計画局長（大阪市）**

ありがとうございました。

それでは、ちょうど時間が参りましたので、これで終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。